



Title	”mubhamタイプ”の同族目的語と文体：ターハー・フサインの場合
Author(s)	岡崎, 英樹
Citation	関西アラブ・イスラム研究. 2001, 1, p. 31-51
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/105240
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

“mubham タイプ”の同族目的語と文体 ——ターハー・フサインの場合

岡崎 英樹*

1. 同族目的語に関する従来の研究

アラビア語の同族目的語 (al-maf'ūl al-muṭlaq)¹⁾ に関しては、従来から Wright (1898) や Reckendorf (1895) のような文法書に伝統文法の枠組みからの解説があったが、この文法現象を単独で扱ったものはなかった。また、それらの解説は統語的側面に限られていた。しかし、近年になって、Johnstone (1991) に文体や語用論との関連から同族目的語への言及がみられる他、Talmon (1999) のようにコーランの同族目的語そのものを扱った研究も現れた。また、Holes (1995) にはバハレーン方言における同族目的語の記述及び社会言語学的・語用論的考察がみられる。

1-1. 同族目的語の一般的分類

アラビア語の同族目的語は、次のように伝統的に3種類に大別されており、各々に次のような様々な呼称がある²⁾。(i) 同族目的語となる動名詞又は 'ism an-naw' (nomen speciei) が他の語句、節などに修飾される場合：li-t-tamyīz, li-t-tabyīn, li bayān-i naw'-i-hi などと呼ばれる。(ii) 同族目的語となる名詞が 'ism al-marra (nomen vicis) となる場合：mu'aqqat, li-t-ta'dād, li bayān-i 'adad-i-hi などと呼ばれる。(iii) 修飾語句等が付かない非限定の動名詞が同族目的語になる場合：mubham, li-t-ta'kid などと呼ばれる。なお、英語学で同族目的語の一つに分類される *He fought a desperate battle.* のように動詞と同語源でな

* 四天王寺国際仏教大学 専任講師

1) この文法用語の使用が確認できる最も古いものに、イブン・アッサッラージュ (d. 927) の *al-'Uṣūl fī an-Nahw* があり (Levin 1991 p.917), 8種類の maf'ūl の一つに分類された (Owens 1988 pp. 167-8; 1990 pp.161-2)。

2) li-t-tamyīz, li-t-tabyīn は Wright (1898: 56), li bayān-i naw'-i-hi は Abdul-Massih & Tabri (1990: 418), mu'aqqat は az-Zamaḥṣārī (1990: 45), li-t-ta'dād は Wright (1898: 56), li bayān-i 'adad-i-hi は Abdul-Massih & Tabri (1990: 418), mubham は az-Zamaḥṣārī (1990: 45), li-t-ta'kid は Abdul-Massih & Tabri (1990: 418) で用いられる。

い名詞については、本稿では同族目的語に含めない (cf. 荒木・安井 (編) 1992: 255-6)。

概して同族目的語は、Johnstone (1991: 110) が指摘するように、純粋な副詞が少ないアラビア語の構造を補う手段の一つであるとも言えるが、上記 (i)-(iii) は、表現される内容、使用頻度といった観点からみれば用法は異なる。(i)(ii) は、広く用いられる構文であり、具体的な意味を伴った副詞的表現であるという点で解釈もしやすいように思われる。これに対して、(iii) のように同族目的語に修飾語・句・節がつかないもの (以下「mubham タイプ」と呼ぶ) は、一般的に言って、頻繁に用いられるものではない。また、用例を単体で見ると、mubham タイプの同族目的語を削除しても統語的な文の的確性に変化はない³⁾。さらに、動詞本来の意味に“強意・強調”といった抽象的な意味が加わるといった理解は可能だとしても、実際のテキストの中で用例をみると、文体的な要因が関わっており、統語的な説明のみでは不十分であると思われるものが少なくない⁴⁾。

1-2. mubham タイプに関する Talmon の研究

Talmon (1999: 107-129) の研究は、Goldenberg (1971: 36-85) によるセム諸語の *predicative nexus* に関する研究を、アラビア語の同族目的語を中心に「否定」「外位置」「焦点化」等の観点から考察することに重点を置いているが、同時に、コーランの同族目的語についての有益な考察や資料を多数提供している。特に、mubham タイプの使用と文体との関連への言及は、これまで統語的側面に限られていたこの分野に、一つの方向性を示しているという点において注目に値する。

1-3. 本研究の目的

本研究は1998年7月9日に大阪外国語大学で開催された言語社会学会第1回研究大会での発表及びその報告書 (岡崎 1998: 20-3) に、その後の分析、考察を加え、2000年9月30日の関西アラブ研究会第2回研究会 (於：四天王寺国際

3) mubham タイプでないものは、多くの場合、同族目的語を削除すると文法的に成り立たない。ただし、形容詞に修飾される場合には削除が可能であり、同族目的語の用法の一つであると伝統的に解釈されている。例：*ḡarab-tu-hu šadid-an.* (← *ḡarab-tu-hu ḡarb-an šadid-an.*)

4) Chaucer, Shakespeare, C. Brontë, W. Saroyan, W. S. Maugham, J. Steinbeck 等の英語にみられる同族目的語の包括的な研究を行った倉田 (1971: 274) も、同族目的語の研究においては「文法的 (統語的) 側面からのみでは解決し得ない多くの問題を含んでいる」ため、文体論からの研究の必要性を強調している。

仏教大学)で行った口頭発表をまとめたものである⁵⁾。上記報告書では、ターハー・フサインや他の作家の著作から得られた同族目的語の用例を基に分析を試みたが、その後、彼の他の著作からも用例を収集した。また、その間、既に述べた Talmon の研究も現れ、同族目的語を研究する上で様々な示唆を与えられた。本研究では、これまで収集した用例を、動詞派生形第Ⅱ形と、反復・並行法に焦点をあてて分析した。

2. コーパスとしてのターハー・フサインの著作と分析方法

上記報告書では、ターハー・フサインから4つの著作を選んだが、その後14の著作を加え、本研究では18の著作 (*al-'Ayyām* と *Ḥadīṭ al-'Arbī'ā'* は3分冊) から用例を収集した。その際、特定のジャンルの著作に極端に偏らないように様々な内容のものを選択するように心がけた。右の表は、各著作から収集した同族目的語の全用例数と mubham タイプの用例数の一覧である。用例収集にあたっては、エジプト及びレバノンで出版された単行本を用いた。左側に頁数(挿し絵等を除く)を記すが、1頁あたりの平均語数(推計値)が著作によってかなりのばらつきがある。そこで、著作ごとに用例が現れる頻度をより正確に比較できるように補正した頁数(各著作の全語数÷22冊の1頁あたりの平均語数(=279))を記しておく⁶⁾。

著作 (略号)	頁 数	1頁の 平均 語数	補正 後の 頁数	総用 例数	Mubham タイプ
Aḥ	168	234	141	203	46
Ad	177	279	177	254	107
Ay.I	140	156	78	92	30
Ay.II	182	260	170	154	21
Ay.III	156	326	182	152	27
TT	126	223	101	170	9
ḤD	181	265	172	203	52
ḤA.I	310	411	457	551	163
ḤA.II	257	365	336	344	46
ḤA.III	220	363	286	402	87
Ḥw	136	183	89	186	8
DK	152	298	162	279	120
ŠB	181	312	202	201	24
Šy	238	231	197	227	9
FAĞ	326	364	425	444	94
QT	221	254	201	195	12
KI	130	238	111	137	17
MWN	93	269	90	123	22
MTM	287	342	352	530	58
MFA	188	275	185	210	48
MLŞ	176	256	161	185	49
WH	157	235	132	102	12

5) 関西アラブ研究会第2回研究会での口頭発表に際しては、四天王寺国際仏教大学・池田修教授、岡崎桂二教授からターハー・フサインに関する貴重な情報・コメントを頂戴した。また、本稿をまとめるにあたっては、大阪外国語大学・高階美行教授から様々なご意見を伺うことができた。この場を借りてお礼を申し上げたい。

6) 1頁あたりの平均語数は、各著作の冒頭の10頁の語数を数え平均値を出した。なお、仮に全集

3-1. Talmon によるコーランの分析

Talmon (1999: 112) は、コーランから収集した *mubham* タイプの64の用例(動詞の種類は52)を分析している。それによると、ほとんどの用例において、その動詞の動名詞が同族目的語として用いられているが、動詞派生形が第I形の動名詞を目的語に取るものが3例みられる。また、用いられている動詞の内訳は第I形が34例、第II形が26例、第IV形が3例、第X形が1例となっている。

用法に関しても、Talmon (1999: 112) は新しい解説を加えている。Wright (1898: 54) の「強意・強調に用いられ、動詞にさらに強い意味が加えられる」との記述や、Reckendorf (1895: 98) の「時として、動詞に強さや重みが加わり、動詞の表す動作や行為は部分的なものではなく、完全なものであり、動詞は比喩的な意味で用いられるのではなく、本来の意味で用いられる」⁷⁾といった従来からの記述に加え、Talmon は「語りの中での効果的、印象的な雰囲気」「情緒的、感情的な文体」「動詞派生形・第II形に多く見られるような動作の大きさやそれが作用する範囲、程度の広がり」「隣接の文や脚韻の影響」を加えている。以上のような説明を、Talmon は *mubham* タイプが用いられる要因として、次にあげる A から F の6つに分類し、コーランにみられる64のそれぞれの用例に関して説明を試みている。

A = forceful action/dramatic event

B = stem II

C = non-indicative/affective mode

D = poetical style (impressionistic evaluation)

E = prosodical and structural demands (rhyming and attraction of previous *maṣḍar maṣṣūb*, respectively)

F = extensiveness (of the action or of the affected object[s]; inherent feature of stem II is excluded)

上記の要因 A~F のうち、A と C は従来の解釈からも導かれるものであろうが、B と F は *mubham* タイプの同族目的語と動詞が持つ意味との関連を、また、D と E は文体との関連を示唆するものとして特に重要であると考えられる。以下では、これらの点を中心に、ターハー・フサインの著作にみられる

(al-Šarikah al-‘Ālamiyyah li al-Kitāb 版, Dār al-Kitāb al-Lubānī版) を用いたとしても、*al-‘Ayyām* が他の著作に比べ文字が極端に大きいということもあり、著作によって1頁あたりの語数のばらつきが生じることに変わりない。

7) Talmon (1999: 112) では “the action is absolute, powerful, seems incessant and professional” と簡潔に英訳されている。

mubham タイプを考察してゆく。

3-2. ターハー・フサインにおける分布と分析

上記のように、Talmon は mubham タイプが用いられる6つの要因の1つとして、「動詞派生形・第II形 (B=stem II)」という独立した項目をあげて、「動作・作用の広がり (F=extensiveness)」と区別している。Talmon が収集したコーランにおける mubham タイプの用例を動詞ごとに比率を計算してみると、確かに第II形が多く用いられていることがわかる。第I形及び派生形ごとの内訳は、第I形34例 (53.1%), 第II形26例 (40.6%), 第IV形3例 (4.7%), 第X形1例 (1.5%) となり、第II形は他の派生形と比較して極めて多く用いられている。

一方、ターハー・フサインの著作における比率を調べてみると、第I形404例 (38.7%), 四語根動詞第I形1例 (0.1%), 第II形148例 (14.2%), 第III形3例 (0.3%), 第IV形211例 (20.2%), 第V形18例 (1.7%), 第VI形1例 (0.1%), 第VII形27例 (2.6%), 第VIII形208例 (19.9%), 第IX形3例 (0.3%), 第X形20例 (1.9%) という結果となり、第II形以上に第IV形や第VIII形が多く用いられていることがわかった。

Talmon が「stem II」という独立した項目を設けたのは、コーランの分析では他の派生形に比べて第II形が極めて多いことによるものと考えられるが、ターハー・フサインの著作に関しては、この項目を特に設ける必要はないように思われる。尤も、ここで重要なことは、動詞が本来持つ意味と mubham タイプとの関係を Talmon が指摘している点である。実際に、コーランでもターハー・フサインの著作においても、mubham タイプの同族目的語をとる動詞には、以下の例のように動作・作用の強さや広がりを感じさせるものが多い。それが、派生形の中で第II形や第IV形が多いことにつながっているのではないだろうか。

وصَبَّيْنَا مَنْزِلَ فِي نَاحِيَةِ مِنْ هَذِهِ الْحَجَرَةِ، وَاجْمُ كُنَيْبٍ دَهْشَ يَمْرُقُ الْحَزْنَ قَلْبَهُ
(al-Ayyām I p.132) تمزيقا

As for our lad he sat alone in a corner of the room, silent, downcast, bewildered,
with grief simply tearing at his heart. (tr. by Paxton 1981: 69)

4. mubham タイプと隣接文の構造

mubham タイプの用例を収集してゆく中で、統語的な考察だけでは必ずしも十分であると言えず、文体的な側面からの研究を加えることが不可欠であると考えに至った。以下では、mubham タイプと隣接文の構造に焦点をあ

て考察する。

4-1. Talmon の解釈とテキストの性格

Talmon のあげている前述の6つの要因のうち、D (= poetical style) を付しているものは64例のうち14例あり、E (= prosodical and structural demands) を付しているものは64例のうち55例にのぼる。文体に関わるこれら二つの要因は、彼が行った韻文的要素の強いコーランに現れる用例の分析としては妥当なものであろうが、現代の散文に現れる用例の分析にそのまま適用することは困難であると考えられる。ターハー・フサインの文体にいかんコーランの影響が多く見られ、韻文的要素が散在していようと、コーランの文体とは大きな隔たりがあることも事実である。

4-2. アラビア語散文における反復 (Repetition) ・ 並行法 (Parallelism) ⁸⁾ とターハー・フサイン

アラビア語の様々な文法レベルにおいて、広義の“繰り返し”が多用されることについては、しばしば指摘されている。たとえば、語彙レベルでは、二詞一意的な用法 (lexical couplet, hendiadys) ⁹⁾ として 'at-ta'yīd-u wa l-musā'ada-t-u “the aid and the help”, ḥukm-un wa sulṭān-un “authority” のような用例がある (Beeston 1970: 112, Johnstone 1991: 39-45)。また、形態的並行法 (morphological parallelism) には、'at-taḥrīb-u wa t-tadmīr-u “destruction and demolition” のように語形が同じ語を繰り返すものや、wa huwa ya-'mad-u 'ilā dālīka 'amd-an “and he does that intentionally” のように同一語根の語を繰り返すもの (同族目的語) がある (Johnstone 1991: 55-79)。

ターハー・フサインの文体についても、反復・並行法といった観点から多く論じられてきた。たとえば Cachia (1956) はターハー・フサインの文体の特徴の一つとして、様々な語、句、文の反復をあげ、それぞれの例を紹介している。まず、同一語根の語を反復する例として、以下の [1] のように名詞をそれと同じ語根の形容詞 (能動分詞) が修飾するものと、[2] のように同族目的語の例をあげている。

8) 参考文献の多くで厳密な区別をしておらず、他の用語が使われている場合もある。ここでは、parataxis, paronomasia, tautology, paraphrase に分類可能なものも含め、音韻・形態・語彙・統語・意味における広義の“繰り返し”を代表するものとして「反復・並行法」を用いた。

9) これらに関する他の例としては、Monteil (1960: 284-288) や Somekh (1991: 80) などを参照。なお、Beeston が “hendiadys” と呼んでいるものは、Johnstone では “lexical couplet”, Somekh では “synonymic coupling”, Monteil では “le pléonisme” に分類している。

[1] وأمسكت بعض الناس في نعيم ناعم، وأمسكت بعضهم الآخر في بؤس بائس،
(*Riḥlah ar-Rabīʿ wa aṣ-Ṣayf* p.143)

(the blind gods of chance) maintain some people in blissful bliss, and maintain some others in miserable misery, (tr. by Cachia 1956: 221)

[2] ثم عادت الرعدة السريعة فهزت جسمها هذا، ثم انهمرت دموعها انهمارا،
(*Duʿāʾ al-Karawān* p.26)

Then, she shivered all over; her tears flowed freely, (tr. by As-Safi 1980: 17)

Cachia はこれ以外にも，[3] のように反対の意味を持つ文を反復することによる強調や，[4] のような並置による対照法が多くみられることも指摘している。

[3] لا يأكلون على الأرض وإنما يأكلون على الموائد. لا يأكلون الذرة، وإنما يأكلون خبز الحنطة. لا يأكلون في أطباق النحاس. وإنما يأكلون في أطباق من الخزف،
(*Duʿāʾ al-Karawān* p.26)

(... people who) did not eat off the floor, but ate from a table; they did not eat maize, but ate wheaten bread; they did not eat from copper plates, but ate from porcelain plates. (tr. by Cachia 1956: 221-222)

[4] فاجتمع القوم حول مائدتهم وأقبلوا على طعامهم في نشاط يشبه الجد الهازل أو الهزل الجاد
(*al-ʿAyyām II* pp.50-51)

The company gathered round the table with an alacrity which was half serious and half burlesque. (tr. by Wayment 1943: 138); “playful seriousness or serious playfulness” (Cachia 1956: 222)

さらに，[5] のように単に真実を描写する場合にこの種の技巧を用いることにより，時として滑稽さを表現するとしている。

[5] يبيع فيه سقط المتاع من هذا الخرز الذي يتخذ الفقراء منه عقودا يتحلى بها النساء والفتيات، ومن هذا الزجاج الملون الذي يتخذ النساء منه أساور أو دوائر مفرغة يدخلن فيها سواعدهن، أو يدخلنها في سواعدهن، ويبهرن أنفسهن كما يبهرن الرجال بألوانها الزاهية ورنينها الحلو،
(*al-Muḍḍabūna fī al-ʿArḍ* p.126)

he sold such trash as those beads from which the poor make necklaces and with which the women and girls adorn themselves, and that colored glass from which they make bracelets and hollow circles into which they insert their arms. They would dazzle themselves and dazzle the men with their bright colors and pretty ringing. (tr. by El-Zayyat 1995 : 98)

Cachia 以外にも，個々の著作にみられる反復・並行法について，*al-ʿAyyām* を扱った Malti-Douglas (1988)，*Duʿāʾ al-Karawān* を扱った Nijland (1997)，*ʿAhlām Šahrazād* を扱った ʿAbd al-Ġawwād (1998) などが具体例を多数あげている。以下の [6] と [7] は Nijland の指摘している例である。[6] は極端な例ではあるが，同一の前置詞句が繰り返し10回用いられている。[7] は脚韻を

踏むかのように形容詞が用いられる例である。

[6] فلا أكاد أدخل عليه حتى ترتفع إلى عيناه وقد ملأتهما عواطف شديدة الاختلاف، ومعان عظيمة التناقض، فيها الحب وفيها البغض فيها الأمل وفيها اليأس، فيها الوعيد وفيها الخوف، فيها الشهوة وفيها الزهد، فيها القرب وفيها البعد. (*Du‘ā’ al-Karawān* p.144)

I would scarcely enter the room before he looked up at me with eyes betraying vastly conflicting emotions and contradictory meanings of love and hate, hope and despair, menace and fear, desire and indifference, intimacy and estrangement. (tr. by As-Safi 1980: 115)

[7] وأفكر في هذه الفتاة اليائسة وفي هذه المرأة البائسة (*Du‘ā’ al-Karawān* p.29)

I was thinking of this desperate girl and that unfortunate woman. (tr. by As-Safi 1980 : 20)

また，[8] は Malti-Douglas が指摘している例の一つで，同一の文（2つ目以降の主語は代名詞に置き換え）が3回繰り返されている。

[8] وفي الحق أنه لم يفهم لماذا صدق وعد أبيه في هذه السنة، فقد أخبر الصبي ذات يوم أنه مسافر بعد أيام. وأقبل يوم الخميس، فإذا الصبي يرى نفسه يتأهب للسفر حقاً، وإذا هو يرى نفسه في المحطة ولما تشرق الشمس. وهو يرى نفسه جالسا القرفصاء منكس الرأس كئيباً محزوناً، ويسمع أكبر إخوته ينهره في لطف قائلاً له: (*al-‘Ayyām II* pp.138-40)

In truth he did not know why his father's promise that year turned out to be true, but he informed the lad one day that he would leave in a few days' time. Thursday came and the lad actually found himself preparing for the journey. He found himself at the station before sunset, sitting in a squatting position, with bowed head, downcast and sad. He heard his eldest brother rebuking him gently and saying, (tr. by Paxton 1981: 72 (1997: 80))

以上のように，ターハー・フサインの著作に語句，節，文の反復・並行法が多用されることについては，それに対する評価や価値判断はさておき，彼の文体を特徴づけるものの一つであるといえる。

4-3. ターハー・フサインにおける *mubham* タイプ

ターハー・フサインが *mubham* タイプの同族目的語を好んで用いることは Cachia (1956: 221) が指摘している通りである。実際に *mubham* タイプがどの程度の頻度で現れるかを調べた結果次のようなことがわかった。なお，以下の頁数は2. で示した著作ごとのばらつきを補正した頁数である。最も高い頻度で現れるのは *Du‘ā’ al-Karawān* (1934) で，162頁に120例が用いられている。次いで高いものは *‘Adīb* (1935) で，177頁に107例が用いられており，これら同時期の2つの小説が他に比べて極めて高い。次いで *al-‘Ayyām I* (1926 (1927)) が78頁に30例，*Ḥadīṭ al-‘Arbī‘ā’ I* (1922 (1925)) が457頁に163

例, 'Aḥādī (1959) が141頁に46例と続く。反対に, 率が低い著作は *aṣ-Ṣayḥān* (1944) と *Qīṣaṣ Tamīlīyah* (1924) の2作品であり, それぞれ197頁に9例, 201頁に12例となり, 他と比べると極めて低い。概して, 評論, エッセイよりは小説(歴史小説を除く)において多用される傾向が強く, 30年代半ばまでに発表されたものに高い頻度で用いられる作品が多い¹⁰⁾。このように著作ごとに差があるものの, 全体の平均としては, 4頁強に1例の割合で mubham タイプが使われている計算になる。

では, これらはどのような環境で用いられているのだろうか。すでに見たような反復・並行法という観点から, ターハー・フサインの著作にみられる mubham タイプを調べてみた。その結果, 1061例の mubham タイプ(分詞が同族目的語をとる20例を含む)のうち, およそ3割のものが他の mubham タイプに隣接して現れ, 反復・並行法として用いられていることがわかった。つまり, mubham タイプはそれ単独でも同語反復の構文であるが, それがさらに反復され二重の反復となっている。以下の [9] [10] のように同族目的語の語形や脚韻までもが同じものは少数であるが, [11] から [13] のように語形が異なったり, 韻文における脚韻とは解釈できないものがほとんどを占める。なお, その機能から見れば, [9] [10] は synonymous parallelism (類義の内容の反復, 強化), [11] は antithetical parallelism (相対する意味による対照), [12] [13] は synthetic (cumulative) parallelism (補足, 完結) 又は climactic parallelism (漸層法的な積み上げ) に分類することができよう (cf. Beeston 1974: 134; 池田拓朗 1992: 382)。

[9] أخلو إلى نفسي أمام هذه الأشياء، وأفكر في أن قوما يزحفون عليها يريدون بها
السوء، ولا يكرهون، ولعلهم يحبون أن يمحوها محقا ويسحقوها سحقا،
ليغضوا من أمر باريس، وليغضوا من أمر فرنسا، (ʿAdīb p.156)

I stand alone before these things and I ponder about a people marching toward them, wishing them harm, not averse, perhaps even desiring to annihilate savagely and totally crush them so that they may erase Paris, so that they may erase France, (tr. by El-Zayyat 1994: 119)

[10] وإن لم يكن قد حفظ ولا وعى ولا هيا نفسه للقاء الخطوب مر بالغول فالتقمه
التقاما والتهمة التهاما، وقطع الوسائل بينه وبين من ترك وراءه ومن كان يمشى
للقائمه أمامه ... (Duʿā' al-Karawān pp.77)

But if he has not retained the advice, he will be unprovided for at this trial, the ogre will make a mouthful of him thereby severing him for good from those whom he has left and from joining up with those whom he wants to see... (tr. by As-Safi 1980: 61-2)

[11] وتتصل الحياة على هذا النحو، لا أجد لنفسي منها مخرجا ولا يجد لنفسي منها

10) ターハー・フサインの作品一覧及び初版発行年については Badawi et al. (1975: 141-5), Brugman (1984: 374-7) を参照。

مخرجاً، وإنما دفع كل منا إلى صاحبه دفعاً، ورَدَّ كل واحد منا عن صاحبه رداً، لا يستطيع أن يخرجني من داره، ولو قد أراد ذلك لكرهت أن أخرج من هذه الدار، ولا أستطيع أن أفارقه جهرة ولا خفية، ولو قد فعلت لطلبني حيث أكون من الأرض.
(*Du‘ā’ al-Karawān* pp.169-70)

The days went by as they had before; there was no way out for him or me: we drew very close yet remained inaccessible to each other. He could not send me away: if he had done, it would have been painful to leave this house; I could not leave him either secretly or openly and if I had left he would have looked for me everywhere. (tr. by As-Safi 1980: 120)

[12] ينهض عبد الرحمن إذن مصمماً على أن يمضى فى ماله أمر الله ورسوله، ولكن النبى يرسل إليه أن الله ورسوله يرفقان به بعد أن امتحناه ومحصاه، فيأمرانه بأن يضيف الضيف ويطعم المسكين ويعطى السائل ويبدأ بأهله وعياله، فإن فعل فقد زكى نفسه تزكية، وظهر ماله تطهيراً. (*al-Mu‘addabūna fī al-‘Arḍ* pp.169-70)

‘Abd al-Rahman then rises, determined to deal with his money as God and the Prophet have commanded him. But then the Prophet sends him word that God and His Prophet have taken pity on him and command him to take in guests, feed the poor, and give to those who ask, starting with his family and his children. If he does so then he will have totally sanctified his soul and completely purified his money. (tr. by El-Zayyat 1995: 135)

[13] ولكنه لا يجيب، وإنما يستعجلنى ويلح فى الاستعجال، حتى إذا تركته وذهبت لألبس ثيابى سمعته وهو يذهب ويجىء كالمجنون، ويتغنى فى صوته الغليظ بما يحضره من الشعر. ثم أخرج له فيخطفنى خطفاً. ويعدو بى عدواً حتى يلقينى فى العربة إلقاءً، ثم يأمر السائق أن يمضى إلى مكان كذا حيث يقيم فلان. (*‘Adīb* p.43)

He did not answer, but relentlessly and resolutely urged me to hasten, till I was obliged to leave him and go dress, all the time hearing him pace back and forth like a madman, reciting whatever poems occurred to him in his broad voice. I came back to him and he literally snatched me up, dragged me, thrust me heavily into the car, and ordered the driver to go to such-and-such a place where such-and-such a person lived. (tr. by El-Zayyat 1994: 30-1)

上記以外の例は著作別にすべて末尾の「資料」に記すことにする。なお、以下の [14] のように、同族目的語の用例が隣接していても、片方のみが *mubham* タイプであるものは数に入れてない。

[14] ولكنه قد أسرع فأخذه من يدي، ثم زجرنى زجراً عنيفاً وطردنى من الغرفة طرداً.
(*Du‘ā’ al-Karawān* p.133)

but he is quicker than me, he tears it out of my hands, rebukes me violently and sends me immediately out of the room. (tr. by As-Safi 1980: 105)

以上のように同一構造の文の反復については，“詩的”(As-Safi 1980: preface), “音楽的”(‘Abd al-Ġawwād 1998: 453) といった形容がされているように、構文上の必然というよりは独特なリズムを生み出す効果をねらったものと考えられる。また、これはターハー・フサインの文体にみられる韻文的要素のひとつでもある。ターハー・フサインの著作にコーランの影響が広い範囲

に見いだされることはしばしば指摘されているとおりである。例えば、‘Abd al-Ġawwād (1998: 453-54) は、ターハー・フサインの文体に強い影響を与えているものとしてコーラン、アルジャーヒズ、アブー・ハイヤーン・アッタウヒーディーをあげ、特に反復・並行法にみられるコーランの影響を具体的に例証している。しかし、この点に関しては予想に反した結果となった。「資料」にあげた例の中には、明らかにコーランからの引用であるものはないし、コーランの表現の振りであると認められるものも1例も見いだすことはできなかった。しかも、彼はコーランとは比較にならないほど mubham タイプを多用している。韻文的で古典的と考えられている mubham タイプが、意外にコーランでは用いられていないのである。このことから、彼の mubham タイプの使用は、少なくともコーランから直接影響を受けているとは言い難い。

4-4. 他の同世代作家との対比

ターハー・フサインの著作においては、mubham タイプどうしが隣接して用いられることが多いことは以上でみたとおりである。では、このことはアラビア語散文全般にも言えるのであろうか。ターハー・フサインほどではないが、比較的 mubham タイプ多用する作家として¹¹⁾、タウフィーク・ユースフ・アウワードを選び、その著作にみられる用例を調べてみた。用いた著作は初期の短編集 *aṣ-Ṣabī al-ʿAʿraġ* (初出 1937年) と、より後期の小説 *Ṭawāḥin Bayrūt* (初出 1972年) である。それぞれ25例、12例の mubham タイプの用例がみられるが、隣接して用いられているのは以下の [15] の1ヶ所に限られる。

[15] لا. إن الضحك من قلبها الطافح بالحياة، الطافر على الدرجات، القافز بها قفزاً، الطائر بها طيراناً، يحطها على صدر ماري ويتدفق.
(*Ṭawāḥin Bayrūt* p.219)

No, the laugh had come from her heart which was brimming over with life. It was spilling over on to the stairs, it seemed as if it were bounding up the stairs, bearing her up and up until it finally desposited her on Mary, to whom she was able to pour out her feelings. (tr. by McLoughlin 1976: 152)

そもそも、タウフィーク・ユースフ・アウワードの著作には、ターハー・

11) 例えば、Bloch (1974) 所収の9つの短編のうち、mubham タイプの同族目的語が用いられているものは6編あり、そのうちアウワードの4例が最も多い。残りの5編は、ミハーイール・ヌアイマ、マフムード・タイムール、タウフィーク・アルハキーム、アブド・アルマリク・ヌーリー、ナギーブ・マフフーズにそれぞれ1例づつ用例がある。同様に、Brinner & Khouri (1971) 所収の14編では、3編のみに現れ、ターハー・フサインが12例、アウワードが7例、ズー・アンヌーン・アイユーブが3例となっている。なお、同書 p.184 にはアウワードの mubham タイプの同族目的語用例に関し、「古典的なアラビア語に強く影響を受けた作家に特に用いられる修辭的技巧である」とのコメントがみられる。

フサインほどの反復・平行法の多用はみられない。したがって、アウワードに関しては、mubham タイプと反復・並行法とを積極的に関連づけることは困難に思われる。

5. おわりに

本研究では、従来統語的側面から説明されてきた mubham タイプの同族目的語を、文体的側面に焦点を当て、反復・並行法を中心に考察を試みた。その結果、以下のようなことが明らかになった。

- (1) mubham タイプで用いられる動詞は、動作・作用の強さや広がりを感じさせるものが多く、I形、II形、IV形、VIII形の動詞が多く用いられている。反対に、III形、V形、VI形、VII形、IX形、X形が用いられる例は非常に少ない。
- (2) 著作の内容、発表された時期からみると、概して30年代半ばまでの小説に多用される傾向にある。
- (3) mubham タイプの用例の約3割が、反復・並行法という環境で用いられており、隣接文の構造と深く関わっている。このことは、アウワードの著作での現れ方とは対照的である。
- (4) コーランの影響がしばしば指摘されるターハー・フサインの文体であるが、mubham タイプに関しては、コーランの直接的な影響を認めるのは困難である。

なお、上記 (2) に関しては、今回調べた著作だけからは明確な結論を出すことは不可能であり、ジャンルごとの文体の差異、時期的な文体の変遷についての研究が必要である。また、(4) についても、アルジャーヒズやアブー・ハイヤーン・アッタウヒーディーからの影響を考察することが今後の課題である。

[コーパスとしての刊行物リスト]

		著作略号
أحاديث (1986)، دار العلم للملايين	طه حسين	Ah
أديب (الطبعة السابعة)، دار المعارف	طه حسين	Ad
الأيام ١ (الطبعة الحادية والستون)، دار المعارف	طه حسين	Ay.I
الأيام ٢ (الطبعة الحادية والثلاثون)، دار المعارف	طه حسين	Ay.II
الأيام ٣ (الطبعة السادسة)، دار المعارف	طه حسين	Ay.III
تقليد وتجديد (1984)، دار العلم للملايين	طه حسين	TT
الحب الضائع (الطبعة الخامسة عشرة)، دار المعارف	طه حسين	HD
حديث الأربعاء ١ (الطبعة الثانية عشرة)، دار المعارف	طه حسين	HA.I
حديث الأربعاء ٢ (الطبعة الثانية عشرة)، دار المعارف	طه حسين	HA.II
حديث الأربعاء ٣ (الطبعة العاشرة)، دار المعارف	طه حسين	HA.III
خواطير (1984)، دار العلم للملايين	طه حسين	Hw
دعاء الكروان (1997)، دار المعارف	طه حسين	DK
شجرة البؤس (الطبعة الخامسة عشرة)، دار المعارف	طه حسين	SB
الشيخان (الطبعة الثامنة)، دار المعارف	طه حسين	Sy
في الأدب الجاهلي (الطبعة الثانية عشرة)، دار المعارف	طه حسين	FAĞ
قصص تمثيلية (1985)، دار العلم للملايين	طه حسين	QT
كلمات (1985)، دار العلم للملايين	طه حسين	KI
ما وراء النهر (الطبعة الرابعة)، دار المعارف	طه حسين	MWN
مستقبل الثقافة في مصر (الطبعة الثانية)، دار المعارف	طه حسين	MTM
المعذبون في الأرض (الطبعة العاشرة)، دار المعارف	طه حسين	MFA
من لغو الصيف (1988)، دار العلم للملايين	طه حسين	MLS
الوعد الحق (الطبعة الرابعة والثلاثون)، دار المعارف	طه حسين	WH
الصبي الأعرج (الطبعة الثالثة عشرة 1990)، مكتبة لبنان	توفيق يوسف عواد	
طواحين بيروت (الطبعة الرابعة 1985)، مكتبة لبنان	توفيق يوسف عواد	

[参考文献]

- ‘Abd al-Ğawwād (1998) *al-Ğumal al-Mutawāziyah ‘inda Ṭahā Ḥusayn, Dirāsah fī ‘ ‘Ahlām Šahrazād*” in: *al-Kitāb at-Taḏkāri fī Murūr Ḥamsah wa ‘Išrin ‘Ām ‘alā Raḥil Ṭahā Ḥusayn*, Cairo. pp.395-458.
- Abdul-Massih, G.M. & Tabri, H.G. (1990) *al-Khalil: Mu‘jam Mušṭalaḥāt al-Naḥw al-‘Arabī*. Beirut, Librairie du Liban.
- Awwad, T. Y. (tr. by McLoughlin, L.) (1976) *Death in Beirut*, London.
- az-Zamaḥṣarī *al-Mufaṣṣal fī ‘Ilm al-Luġha*. as-Sa‘idī, Muḥammad ‘Izz ad-Dīn (ed.), Bayrūt, Dār Iḥyā’ al-‘Ulūm, 1st. edition, 1990.
- Badawi, M. M et al. eds. (1971) *Bibliography of Ṭahā Ḥusayn*. Journal of Arabic Literature. Vol. VI, pp.140-5, Leiden.
- Beeston, A.F.L. (1970) *The Arabic Language Today*. London.
- Beeston, A.F.L. (1974) “Parallelism in Arabic Prose.” Journal of Arabic Literature V: pp. 134-146.
- Bloch, A. (1974) *A Chrestomathy of Modern Literary Arabic*. Wiesbaden.
- Brinner, W. M. & Khouri, M. A. (1971) *Readings in Modern Arabic Literature*. Leiden.
- Brugman, J. (1984) *An Introduction to the History of Modern Arabic Literature in Egypt*. Leiden.
- Cachia, P. (1956) *Ṭahā Ḥusayn; His Place in the Egyptian Literary Renaissance*. London.
- Goldenberg, G. (1971) “Tautological Infinitive.” Israel Oriental Studies I: pp. 36-85.

- Holes, Clive (1995) "The Structure and Function of Parallelism and Repetition in Spoken Arabic: A Sociolinguistic Study." *Journal of Semitic Studies*. Volume XL. No.1: pp.57-81.
- Ḥusayn, Ṭāhā (n.d.) *al-Mağmū'ah al-Kāmilah li-Mu'allafāt ad-Duktūr Ṭāhā Ḥusayn*. Bayrūt.
- Ḥusain, Ṭāhā, (tr. by As-Safi, A. B.) (1980) *The Call of the Curlew*. Leiden.
- Hussein, Taha (tr. by El-Zayyat, M.) (1994) *A Man of Letters*. Cairo.
- Hussein, Taha (tr. by Paxton, E. H.) (1981) *An Egyptian Childhood*. Cairo.
- Hussein, Taha (tr. by El-Zayyat, M.) (1995) *The Sufferers Stories and Polemics*. Cairo.
- Hussein, Taha (tr. by E.H. Paxton, H. Wayment, K. Cragg) (1997) *The Days*. Cairo.
- Johnstone, B. (1991) *Repetition in Arabic Discourse: Paradigms, Syntagms, and the Ecology of Language*. Amsterdam.
- Levin, A. (1991) "What is Meant by *al-maf'ūl al-muṭlaq*?" in: Alan S. Kaye (ed.) *Semitic Studies: In Honor of Wolf Leslau on the Occasion of his eighty-fifth Birthday November 14th, 1991*. Volume II. Wiesbaden, pp.919-926. (also in: *Arabic Linguistic Thought and Dialectology*, Jerusalem, 1998: Chapter XI.)
- Monteil, V. (1960) *L'arabe Moderne*. Paris.
- Malti-Douglas, F. (1988) *Blindness & Autobiography*. Princeton.
- Nijland, C. (1997) "Instead of the Songs of the Nightingale." in: Issa J. Boullata and Terri De Young (eds.) *Tradition and Modernity in Arabic Literature*. Fayetteville, pp.161-172.
- Owens, J. (1988) *The Foundations of Grammar. An Introduction to Medieval Arabic Grammatical Theory*. Amsterdam.
- Owens, J. (1990) *Early Arabic Grammatical Theory. Heterogeneity and Standardization*. Amsterdam.
- Reckendorf, H. (1895) *Die Syntaktischen Verhältnisse des Arabischen: Erste Hälfte*, Leiden.
- Somekh, S. (1991) *Genre and Language in Modern Arabic Literature*. Wiesbaden.
- Talmon, R. (1999) "The Syntactic Category *Maf'ūl Muṭlaq*: A Study in *Qur'ānic Syntax*." in: Yasir Suleiman (ed.) *Arabic Grammar and Linguistics*. Curzon. pp.107-129.
- Wright, W. (1896-1898) *A Grammar of the Arabic Language*. 2 vols. 3rd revised edn. (repr., Cambridge University Press, 1981)
- 荒木一雄・安井稔編 (1992) 『現代英文法辞典』三省堂
- 池田拓朗 (1992) 『英語文体論』研究社
- 岡崎英樹 (1998) "アラビア語の同族目的語 —— T. フサイン, N. マフフーズ, Y. イドリースの著作からの用例分析" 大阪外国語大学言語社会学会研究大会報告集 Vol. 1 pp. 20-23
- 倉田達 (1971) 『英文法論叢-同族目的語と直喩』篠崎書林
- ケーティ・ウェールズ (豊田昌倫他訳) (2000) 『英語文体論辞典』三省堂
- ターハー・フセイン (池田修訳) (1978) 『不幸の樹』河出書房新社
- タハ・フサイン (田村秀治訳) (1976) 『コーランとの日々 —— わがエジプト』サイマル出版会
- 藤本勝次・伴康哉・池田修訳 (1979) 『コーラン』中央公論社

【資料】ターハー・フサインの著作に見る mubham タイプ (反復・並行法)

著作略号の右の数字は用例の現れる頁を示す。1 頁に複数の用例がある場合は a,b,c を付す。

*** أحاديث ***

- Ah-7 فاذا هي تصب عليه الماء صبا ، أو تحصبه البرد حصبا .
 Ah-13 ولم يبق لها فيه أرب فهي تنبذه نبذا وتلقيه القاء .
 Ah-14 وإنما كان يعدها للخروج منها اعدادا ، ويهيئها للمرح تهيئة .
 Ah-20 ولكنني كنت أحب أن أعرف مصدر هذا الشعر الذي دفع اليه دفعا وهام به هياما .
 Ah-24 فكيف بصديقنا الجغرافي أن يترجم هذا الاثر الأدبي الخالد الذي ينقض علمه نقضا ويرفضه رفضا ؟
 Ah-85 وإن سنختلط به اختلاطا ، وتمتزج به امتزاجا ،
 Ah-119 وإنما يحرقونها تحريفا ويشوهونها تشويها ، ثم يجادلون فيها جدالا لا غناء فيه لانهم اضعف وأغلظ

*** أديب ***

- Ad-43 ثم أخرج له فيخطفني خطفا . ويعدو بي عدوا حتى يلقيني في العربة القاء ،
 Ad-44 وإنما أوتر أن يفاجئني مفاجأة ، وأن يختطفني اختطافا ،
 Ad-64 قبل أن تمحي معالم الكتاب محوا . وقبل أن تحت النخلتان اجتثاثا ،
 Ad-65a ولعلني أجرد نفسي من خواطرها ، وأسلها مما حولها سلا ، وأعلقها في هذا السكون تعليقا ،
 Ad-65b وإنما هي تملؤه حياة لا يشعر بها الأحياء إلا إذا سلوا أنفسهم من المادة سلا ، وعلقوها في سكون الليل تعليقا .
 Ad-70 كان كلما سمع مني تلة محاها محوا ، وكلما سمع مني دليلا نقضه نقضا ،
 Ad-80 فالغ هذا الفرض الغاء وامحه محوا فليس لي بد من أن أكذب على الجامعة أو...
 Ad-83 وأن حبي لك يحملني على أن أتمنى ما استطعت أن تصرف عن رحلتك هذه صرفا ، وأن تكره على الإقامة في مصر اكرها .
 Ad-98 فإذا ضللت نفسي تضليلا وغررتها تغريرا وزينت لها وللناس أنى...
 Ad-102a وهو يلتهم القول التهاما ، ويقضم البصل قضمًا ،
 Ad-102b وإذا شبخك الحمار أو حمارك الشيخ لا يكاد يملأ القدح حتى يلقيه في جوفه القاء كما يصب الماء من النوافذ على الأرض صبا .
 Ad-117 والذي تود لو تفنى فيه فناء وتمتزج به امتزاجا وتنسى لقراءته الزمان
 Ad-119a ولكنه يشرف بي على اللذة اشرفا ويمعن بي فيها امعانا ،
 Ad-119b فأفسده على افسادا ونقصه على تنقيصا .
 Ad-121 وإنني لأعجب كيف انجلت عنى غمرة الأمل وصرفت صرفا عن هذه الخيالات الحلوة التي كنت أخلقها لنفسى خلقا ،
 Ad-123a لأنها مزقت نفسي تمزيقا ، وعذبت قلبي تعديبا ،
 Ad-123b جهرت بالرفض جهرا وأعلنت الالباء اعلانا ،
 Ad-123c فنبت على أمها نبوا وامتنعت على أبيها امتناعا ،
 Ad-127 فالآن وقد تبين لها الحق وانكشف لها السر تستطيع الجامعة أن تزهد في زهدا ،
 وأن تنصرف عنى انصرافا
 Ad-142 أم كنت أدفع إلى الشر دفعا وأقترف الاثم اقترافا لا أحفل بحميدة ولا بحبها ولا بهذا العهد المؤكد الذي قطعته لها بالوفاء ؟

- Ad-156 ولعلهم يحبون أن يحقوها محقا ويسحقوها سحقا ،
 Ad-163 ولقيت من عبوره هذا الشر العنيف الذى خلقتة لنفسك خلقا ، وخيلته إليها تخييلا أيها الصديق
 Ad-168 فأشعر بأن نشأتى فى مصر هى التى دفعتنى الى هذا كله دفعا وفرضت هذا كله على فرضا ،

*** الأيام ***

- Ay.II-57 فلم يكن يرى امرأة فى الشارع أو الحارة أو الربع الا فصلها بعينه تفصيلا ، وحللها فى نفسه تحليلا ، وجردها من ثيابها تجريدا ،
 Ay.II-112 لذة هذا التين المرطب الذى يقدم اليهما فى اناء صغير ، فيلتهمانه التهاما ثم يعبان فى مائه عبا ،

*** تقليد وتجديد ***

- TT-82 وهو بعد هذا كله قد كان شاعرا خاضعا لتجارب كثيرة خطيرة أثرت فى نفسه وأثرت فى شعره وجعلته عندما ينظم الشعر لا يتكلفه تكلفا ولا يخترع الموضوعات اختراعا ،

*** الحب الضائع ***

- HD-13 ولكنى رددت اليك ردا ، وأكرهت على التفكير فيك ، ثم التحدث اليك أكراها .
 HD-28 كأنهم يهيئوننى له تهيئة ، ويعدوننى له إعدادا .
 HD-49 شغلت بأمر هذه الرحلة التى أصبحت فرأيتها قد دبرت لى تديبرا ، وفرضت على فرضا ،
 HD-65 كان شيئا كان يصدنى عنه صدنا ويصرفنى عنه صرفا .
 HD-84 وكانت ترى مكسيم يدفع إليها دفعا وترى نفسها تدفع اليه دفعا .
 HD-123 وكانت خفيفة الروح لا يستثقل منها هذا الاضطراب العنيف الذى تدفع البيت اليه دفعا وتغرقه فيه أغراقا ،
 HD-124 فخلطها بشخصيته خلطا ، أو مزجها بشخصيته مزجا كما يقول أصحاب الكيمياء .
 HD-129 ثم لا يزال بها حتى يسحرها سحرا ، ويختلب قلبها ولبها اختلابا ،
 HD-182 مهدمة محطمة قد فطر الجزع قلبك تفطيرا ، وفرق الهلع نفسك تفريقا ،

*** حديث الأربعاء ***

- HA.I-9 لأنكم تنكرون الزمن انكارا ، وتلغونه الغاء ،
 HA.I-12 فأعرض عن الكتابين اعراضا ، ويئس من الأدب القديم يأسا ،
 HA.I-15 وينسحق لكم تنسيقا ، ويمهد الطرق لكم فيها تمهيدا .
 HA.I-32 وكيف تضع فيها بيتا مكان بيت دون أن تفسد معناها افسادا ، وتشوه جمالها تشويها ؟
 HA.I-37 فحقق تشبيهه تحقيقا ، وأتقنه اتقاننا ،
 HA.I-58a ولو استطعت ، لعقرت هذه الناقة عقرا ، أو لنحرتها نحرا ، أو لحوتها محوا ،
 HA.I-58b وإنما هى ناقة قد دُست عليه دسا ، وزجت فى حظيرته زجا ،
 HA.I-61 هو الفتى الذى يختصر شباب قومه اختصارا ، ويمثلهم تمثيلا ،
 HA.I-65 وإنما أنا شخص خيالى قد اخترعته اختراعا ، وأبتكرته ابتكارا ،
 HA.I-67 لو لم أخترعك اختراعا ، وأبتكرك ابتكارا ،
 HA.I-78 كأنك ترفع نفسك عن أن تقف عند هؤلاء الشعراء الذين مهدّ شعرهم تمهيدا ،
 وكشفت أغراضهم كشفا ،
 HA.I-81 وإنما تدفع نفسك الى ما تريد دفعا ، وتهجم بها على ما تبتغى هجومًا ،

- HA.I-83 وإنما لمح هذا في شعر لحا ، اختلس منه بعض الصور اختلاسا ،
 HA.I-99 لأنهم بسطوا بسطا ، وفصلوها تفصيلا ،
 HA.I-100 على حين لم يزد زهير على أن ألم بهذه المعاني الماما ، وأجملها اجمالا ،
 HA.I-103 فانظر اليهم يهبطون ومعهم فرسهم هذا الضخم الذي أحكم خلقه احكاما ، وارتفع في
 السماء ارتفاعا ، على قوائمه المفتولة أشد الفتل ، المرة أشد امرار .
 HA.I-114 والذي كان يعنى بشعره عناية ، ويجوده تجويدا ،
 HA.I-128 الى هذه الحياة الجديدة التي كان الاسلام يدعوهم اليها دعاء ، فأصبح يدفعهم اليها دفعا ،
 HA.I-138 أحب الى ألف مرة ومرة من هؤلاء الشعراء الذين تنهال عليهم القوافي انهيالا ،
 وينثال عليهم الكلام انثيالا ،
 HA.I-139 فهم يتنخلون الشعر ويصفونه ، ولا يرسلونه ارسالا ، ولا يهملونه اهمالا ، وهم يقدمون
 الشعر تقدما ، ويثقفونه ثقيفا ، يحاولونه ويزاولونه ،
 HA.I-145 وكثيرا ما تصرفهم عن الخير صرفا ، وتدفعهم الى الشر دفعا ،
 HA.I-147a وترغم أن الرواة قد صنعوه صنعا ، وحملوه عليه حملا ،
 HA.I-147b وإنما هو كلام حمل عليه حملا ، وأضيف اليه اضافة ، وذهب به أصحابه مذهب الدعابة
 والمزاح ؟
 HA.I-148a وهؤلاء اليونان الذين فتنتم بهم فتونا ، وجنتت بهم جنونا ،
 HA.I-148b ثم جاء العقل الحديث ، فغير هذا تغييرا ، ورفضه رفضا ،
 HA.I-149 إنما يحب الشباب قصيدة لبيد حين تترجم لهم ترجمة ، وتفسر لهم تفسيرا ،
 HA.I-150 فيصفي عواطفها تصفية ، ويلطف مزاجها تلطيفا ،
 HA.I-156 لم يثب الى الفخر بنفسه وثوبا ، ولم يندفع اليه اندفاعا ،
 HA.I-168 فلما انتهى الى هذا التشبيه الشائع المألوف لم يرد أن يذهب فيه مذهب الشعراء بل أنكره
انكارا ، ونفاه نفيا ،
 HA.I-173 وإنما يضطرنى اليه البحث اضطارا ، وتكرهنى عليه مناهج النقد اكراها ،
 HA.I-204 أريد أن الخيال لم يخترعها اختراعا وإنما ألفها تأليفا .
 HA.I-232 وإنما أحدثك عن رجل آخر لست أدري في الحق أوجد بالفعل أم لم يكن الا خيالا اخترعه
 القصاصون اختراعا وانتحلوا شعره انتحالا ،
 HA.I-305 فهم كانوا يتعجلون الحكم تعجلا ، ويجتزئونه اجتزاء ،
 HA.I-308 وإنما كان يقتصد اقتصادا ويتوسط في حبه توسطا ،
 HA.I-312 ان نفس ابن أبي ربيعة قد مرت بها أطوار الحياة المختلفة فهذبته تهذيبا وصفتها تصفية ،
 HA.II-51 وأؤكد لهم أنني لم أعمد اليهما عمدا ، وإنما اضطرت اليهما اضطارا ،
 HA.II-72 ومنهم من كان شربه لها متصلا ، ومنهم من كان يلزم بها الماما ،
 HA.II-76 يختلسونه اختلاسا ويسترقونه استرقا ،
 HA.II-97 وإنما نؤمن به إيمانا ، ونعترف به إعترافا ،
 HA.II-99 فقد رأيت مما روينا ، أن أبا نواس لم يبتدع مذهبه في القديم ، ولا في المجون ابتدعا
 ، ولم يتكلفه تكلفا ،
 HA.II-107 وإنما كان يترضاهن ترضيا ، ويتملقهن تملقا ،
 HA.II-128 فصلنا القول في هزل أبي نواس ومجونه تفصيلا ، ونحن مضطرون الى أن نجل
 القول في جده اجمالا ،
 HA.II-142 يختلس اللهو اختلاسا ، ويفر باللذة فرارا ،
 HA.II-145 وهو اذا عمد الى البحور الطوال اجتزأها اجتزاء ، وخففها تخفيفا ،
 HA.II-185 أنصرف عنه ، وقد ألم به الماما ، وخيله اليك تخيلا ،
 HA.III-74 ذلك لأن المؤلف ألم بالموضوعات الماما ولم يتقنها اتقاناً .
 HA.III-113 وكان الكاتب قد نظمها نظما ، وألصق بعضها ببعض الصاقا ،

- HA.III-125 ومن الحق على أن أنشر له هذا الدفع وإن كان قد أسرف فيه أسرافا وأسف فيه أسفافا ،
 HA.III-137 ولكن الانصاف يقضى بأن نقول انه لا يتكلف هذا تكلفا ، لا يقصد اليه حبا في البدع ،
 وإنما هو مضطر اليه اضطارا ،
 HA.III-141 ومنهم من كان يدفعني الى ذلك دفعا ، ومنهم من كان يردني عن ذلك ردا ،
 HA.III-144 والتي تستقر به على حقيقة حتى تزوجه عنها ازعاجا وتدفعه عنها دفعا ،
 HA.III-152 ولا مسرفا في الحب الذي يحرق القلوب تحريقا ويمزق النفوس تمزيقا .
 HA.III-159a ثم كيف تفسد له حياتهم فسادا ، وتضطرب له أمورهم اضطرابا ،
 HA.III-159b والغريب أن الكتاب والشعراء لا يهدون كتبهم ودواوينهم الى الناس اهداء ، إنما هم يبيعون
 هذه الكتب بيعا ،
 HA.III-163 فلا أكاد أتقدم في هذه القراءة حتى أرد عنها ردا وأصد عنها صدا ،
 HA.III-171 وما جزاء المنافسين إلا أن يصلوا منافسيهم حربا شعراء تقصمهم قصما ، وتهدمهم هدما ،
 HA.III-178 فاهتزت لها نفسى اهتزازا ، وأشفق لها قلبى اشفاقا .
 HA.III-187 وقلت أنا قد أهملنا النقد اهمالا ، وأعرضنا عنه اعراضا ،
 HA.III-195 ومن أن يدافع عنه دفاعا ويذود عنه ذيانا ،
 HA.III-197 فعقد معناه تعقيدا ، وأغلقه اغلاقا ،
 HA.III-203 وأن غيرهم هو الذى يحتاج الى أن يتعهد طبيعته تعهدا ، ويكتسب الأدب اكتسابا .
 HA.III-208 ما يزال صديقى الأستاذ عوض حريضا على أن ينظم النقد تنظيما ، ويقيده تقييدا ،
 HA.III-216 فاذا رأيت رجلا يتبدل الأدب ابتدالا ويمتحنه امتحانا ،

*** خواطر ***

- Hw-103 وإنما يلمون بالموضوعات التي يكتبون فيها الماما ويخطفون العلم والمعرفة خطفا ويرضون عن
 أعمالهم مع ذلك ويضيقون بناقديها أشد الضيق .

*** دعاء الكروان ***

- DK-26 ثم عادت الرعشة السريعة فهزت جسمها هزا ، ثم انهمرت دموعها انهمارا ، ثم احتبس
 صوتها فإذا هي تضطرب اضطرابا عنيفا ،
 DK-29 وإنما أكرهت عليه أكرها وأغربت به أغراء ،
 DK-57 أما هذه التي تسمى أمنية فقد احتز رأسها احتزازا . وأما هذه التي تسمى مارتا فقد شق
 صدرها شقا .
 DK-65 وإنما أخذنا على غرة أخذنا واختطففت هنادى من بيننا اختطافا ،
 DK-77 وإن لم يكن قد حفظ ولا وعى ولا هيا نفسه للقاء الخطوب مر بالغول فالتقمه التقما
 والتهمة التهاما ،
 DK-84 ثم انهمار للدموع وانكباب على سيدتى أقبل يديها وقدميها كأتى أشفق أن تردنى ردا أو
 تدفعنى عن الدار دفعا ،
 DK-93 وإنما مكثت أياما وأسابع أجهلها جهلا وأهملها اهمالا .
 DK-94 وهو ينتشر في الجو انتشارا يملأ القلوب لوعة وأسى ، وهو يحمل هذه الأغنية كأنها شرر
 النار لا تمس قلبا إلا أحرقته أحرقا ، ولا تبلغ نفسا إلا فرقته تفريقا ؟!
 DK-99 إنما هو صائد يحتبل الفتيات احتبالا ويختلبن اختلايا ،
 DK-108 وإن تعرض بوجهها اعراضا كلما هم أحد أن يشير إليه من قريب أو بعيد ، وأن تفر منه
فرارا إذا كان الحديث فيه اليها صريحا جليا
 DK-116 ولكنى لم أكد أبلغه حتى رددت عنه ردا ، وحتى كانت حقيبتى قد خطفت منى خطفا ،
 DK-126 قبل أن يرص الخبز عليها رصا فيخفى هذه النقوش أخفاء .
 DK-128 وإنما قضت بأن أخرج من هذه الدار أخرجا وأنهد منها نهدا .

DK-130 وينتھز الفرصة التي يغيب فيها أنبأؤه عن هذه الغرفة التي رصت فيها الكتب رصا فينسل إلى الغرفة انسلا كأنه اللص ، ويقف أمام هذه المائدة أو هذه الموائد التي نظمت عليها الكتب تنظيما ،

DK-131 يعكف عليه هؤلاء الشبان عكوبا متصلا ، يستبقون اليه استباقا ويتنافسون فيه تنافسا ويشتد اختصاصهم فيه ،

DK-135 فلا أنبئها بأني قد دبرت لهذا اليوم تديبرا ، وأعددت له اعدادا ،

DK-142 ثم يستخفين استخفاء كأنما ابتلعهن الظلام ابتلاعا .

DK-143 واستقرت في موضعها من طرف اللسان استقرارا وأطبقت شفتاه من دونها اطباقا .

DK-149 وانما دُفع كل منا إلى صاحبه دفعاً ، ورُدَّ كل واحد منا عن صاحبه رداً ،

DK-151 وقد امتلأ قلبها وعقلها بهذه الحياة التي تحياها امتلاء ، وامتزجا بها امتزاجا ،

*** شجرة اليوس ***

ŠB-97 قد طُرد عنها الشيطان طردا ، ورُدَّ عنها النوم رداً ،

ŠB-176 فتلقى إلى أمها كلمات سريعة كأنما تخطفهن خطفا ، وتلقى إليها أمها كلمات سريعة كأنما تختلسهن اختلاسا .

ŠB-184 ولم يخطر « لمنى » أن في الدار فتاة خليفة أن يؤديها هذا الجوار البغيض وأن يمزق قلبها تمزيقا ويحرقه تحريقا ،

*** الشيخان ***

Šy-178 لمن زاد المال لأعدته لهم عداً ، فان أعياني لأكيلنه لهم كيلاً ،

*** في الأدب الجاهلي ***

FAĞ-10 يستظهرونها استظهارا وينقشونها نقشا على أوراق الامتحان ، و« يكرونها كرا » أمام لجان الامتحان ،

FAĞ-49 والا فاني أنصرف عنه انصرافا وأزهد فيه زهدا ،

FAĞ-111 أليس هذا الشعر قد وضع وضعا وحمل على أصحابه حملا بعد الاسلام ؟

FAĞ-204 وانما هو محمول عليه حملا ، ومختلق عليه اختلاقا ،

FAĞ-229 ولسنا نأمن أن يكون في هذه الأبيات نفسها ما دس على الشاعر دسا ونحله نحلا .

FAĞ-234 فقد لفقت قصته تلفيقا في العراق بعد قصة عبد الرحمن بن الأشعث ، وأخترع شعره اختراعا في العراق أيضا .

FAĞ-261 وليس من شك عندى في أن هؤلاء الرجاز كانوا يتكلفون الغريب تكلفا ، ويخترعون الألفاظ إختراعا لأسباب كثيرة قد نعرض لها في غير هذا الكتاب .

FAĞ-271a وانما كان أوس يعمل شعره عملا وينشئه انشاء .

FAĞ-271b والثانية أنه كان فنانا يتخذ الشعر حرفة وصناعة وفنا يدرس ويتعلم ، وينشئه صاحبه انشاء ويفكر فيه تفكيراً ، ويقضى في انشائه والتفكير فيه الوقت غير القصير .

*** قصص تمثيلية ***

QT-181 وانما ألفها تأليفا وركبها تركيبا واصطنع شيئا من الهندسة في تأليفها وتركيبها .

*** كلمات ***

KI-53 ثم انتقل أمر التراث كله الى وزارة الثقافة فترك ذلك النظام تركا وأهمل اهملا وأصبحنا لا نعلم شيئا من أمر الكتب التي تم تحقيقها ومن أمر الكتب التي بدىء في تحقيقها .

- KI-101 ثم أصبحوا ذات يوم وقد اختطف منهم اختطافا وانتزع منهم انتزعا أشد ما يكونون حرصا على أن يسرع اليه الشفاء وتسبغ عليه العافية ،
KI-119 وإنما ازور عنه ازورارا ونفر منه نفورا لأن القانون لا يسمح بمثل هذه الشهادات .

*** ما وراء النهر ***

- MWN-82 وكأني شغلت عما في قدحى بالنظر إلى هؤلاء الذين أقبلوا على ما أمامهم من الطعام يلتهمونهم التهاما ، وما أمامهم من الشراب يعبونه عيا .
MWN-97 ثم مضى يقود الشاعر وكأنه يحمله حملا ، ويعلقه في الهواء تعليقا ،

*** مستقبل الثقافة في مصر ***

- MTM-18 وأنا من أجل هذا مؤمن بأن مصر الجديدة لن تبتكر ابتكارا ، ولن تختنع اختنعا ،
MTM-33 وهل الحياة الدستورية النيابية إلا شيء أخذناه من أوروبا أخذنا ونقلناه عنها نقلا ؟
MTM-39 فما يمنعنا أن نعدل عنها عدولا ونصد عنها صدودا ونطرحها اطراحا ؟
MTM-92 ومعنى ذلك أيضا أن مصر التي أعفاها الله من نظام الطبقات يجب أن تخلق هذا النظام خلقا ، وتفرضه على نفسها فرضا ،
MTM-181 لا نكتفى منه بأن يلم بها المامابل نريده على أن يتقنها اتقاننا لسبب يسير ،
MTM-234 وحين تلج على الحكومة والبرلمان في تغيير نتائج الامتحان واستنفاذ الراسبين بنص من نصوص القانون يبتكر ابتكارا ويرتجل ارتجالا ،

*** المعذبون في الأرض ***

- MFA-11 ولو قد فطنت عقولهم لكل ما كانت الصحف تنشر من الفصول ، ولكل ما كانت المطابع تذيب من الكتب ، لعطلوا الصحف كلها تعطيلًا ، ولأغلقوا المطابع كلها اغلاقًا .
MFA-81 ولا لأصرفهم عن النعيم بل لأرغبهم فيه ترغيبًا وأدفعهم اليه دفعًا ،
MFA-85 فلا عليه من أن ينكرهم انكارًا ويزدرهم ازدراء ،
MFA-110 وكثيرا ما راعه أنه كان يرى الخادم تغسل هذه الأرض غسلا وتنقيها تنقية ،
MFA-143 وليس شيء أدفع لنفوس الأمهات الى اليأس القاتل من هذا الحرمان الذي ترد اليه ردا وتكره عليه اكراها ،
MFA-170 فان فعل فقد زكى نفسه تزكية ، وظهر ماله تطهيرا .

*** من لغو الصيف ***

- MLŞ-18 بعضه قد هام بالحياة والضوء فانبسط لهما انبساطا وأخذ يلتهمهما التهاما ،
MLŞ-44 فقد عدت الى ذكر الغضب والثورة كأنك تريد ان انكرهما او اعتذر منهما او انبئك بأني تكلفتها تكلفا ، واصطنعتها اصطناعا ،
MLŞ-62 أجهل هذا الفن من فنون الأدب جهلا ، وأهمله اهمالا ،
MLŞ-66 ولعلي أقرأ القصة التمثيلية فأعجب بها عجبا وأفتن بها فتونا .
MLŞ-71 بل يفرقك في الضحك اغراقا ، وقد لا يقف بك عند العبوس بل يدفعك الى البكاء دفعًا ،
MLŞ-72 خلق ليفكر ويرقى بتفكيره الى السماء فيجذب الى الأرض جذبا ، ويكره على البقاء فيها اكراها ، ويؤخذ بالحياة مع أهلها أخذًا .
MLŞ-75 قد جمعت حوله تجميعا ، وكدست حوله تكديسا ،
MLŞ-78 وإنما نكره عليه اكراها ، ويكره هو علينا اكراها ...
MLŞ-86 لتختلس الفرص الى القوة والخير اختلاسا ، وتختطفها اختطافا ،
MLS-141 ورأيتني أنتزع من كنت أعيش بينهم انتزعا ، وأدفع الى هذا المكان دفعًا ،

- MIS-177 فمسحوها مسحا وألغوها الغاء ، ونظفوها المائدة منها تنظيفا .
MIS-178 ولكن ماذا عسى أن ينفع هذا الاحساس بعد أن التهم الساندويش التهاما وأزدردت الفطائر
أزدرادا ومسحت مائدة الداعي مسحا ،

*** الورد الحق ***

- WH-4 وإنما يسعى اليه سعيًا ويمعن فيه امعانا !
WH-15 وإنما تنسقط حياتها تسقطا وتلتقطها تلقطًا ،